

世界淡水魚園水族館 アクア・トト ぎふ 情報誌

# Fresh! Water

Aqua Totto News No.15



- 1P……アクア・トト ぎふ の生き物紹介 [テツポウウオ(鉄砲魚)]  
2P……アクア・トト ぎふ における [種の保存]  
3P……スタッフ飼育日誌 [アジメドジョウのすむ川 / 新アシカショートレーニング2012]  
4P……新連載 キーパースコラムVol.1 [日本最大の水生昆虫タガメ]  
環境学習プログラム [当館ボランティアの活躍]  
5P……企画展レポート  
6P……INFORMATION



002

アクア・トトぎふの生き物紹介

## テッポウウオ

鉄砲魚

## テッポウウオの名前

テッポウウオの仲間は、口から水鉄砲のように水を飛ばし水面上にいる獲物を打ち落とすことで有名です。英名は、archerfish (アーチャーフィッシュ)で、弓を射る魚という意味です。

## テッポウウオの生息地

テッポウウオの仲間は東南アジアからオセアニアにかけて広く分布し、マングローブのような植物が多く茂った淡水域や汽水域に生息しています。世界中で7種が確認されており、そのうちの1種が日本の西表島でも確認されています。

## テッポウウオの能力

テッポウウオの口は特殊なつくりになっています。上あごには射水溝という溝があり、これに舌をあてることでストローの様な細い管をつくります。獲物を見つけると、エラぶたを閉じ、この管に水を通過させて勢いよく飛ばします。こうして、テッポウウオは水面から1.5mも離れた獲物を正確に撃ち落とすことができます。もちろん、水鉄砲を飛ばさず、アメンボなどの水面に浮かんだ虫や、エビなどの水中の小動物も食べます。また、獲物

が水面から数cmの距離にいる場合は、自らがジャンプして獲物を捕まえることもできます。

テッポウウオが「水を飛ばす」という特殊な能力を、進化の過程でどのようにして獲得したのかは明

らかにされていませんが、マングローブの枝葉をすみ家とする小さな虫などを、水の中の生き物が、獲物として狙うとしたら、この「水を飛ばす」方法は最も有効な手段といえるかもしれません。

魚類担当  
真田



## 人気のフィーディングウォッチ

当館では、毎日14時30分からテッポウウオのフィーディングウォッチ(給餌解説)を開催しています。テッポウウオが水を飛ばしてエサを撃ち落とし、捕食する様子をご覧いただけます。うまく撃ち落としてエサにありつくもの、他の個体が落とすエサをちゃっかり横取りするもの、エサを横取りされウロウロと探しまわるものなど、じっくり観察するといろいろとおもしろい発見があります。

1月21日から2月14日までは、バレンタインデー特別企画としてハート型の的を使用し、「テッポウウオがあなたのハートを狙い撃ち!？」を開催しました。



## 種の保存とは、 それぞれの生き物が絶滅しないように 守ることです。

当館が加盟する(社)日本動物園水族館協会は、動物園水族館事業の発展・進行と同時に、文化の発展と科学技術の振興に寄与することを目的に活動しています。全国の動物園87園、水族館66館が会員となり、加盟園館はお互いに連携を図りながら飼育技術・飼育設備の向上、生き物の保護増殖に関する啓発普及、自然保護などに取り組んでいます。その活動の大きな柱として、数が少なくなり絶滅しそうな生き物たちに、動物園や水族館が、生きて行ける場を提供し保存する「種保存事業」があります。

当館は、ハクバサンショウウオ、ホクリクサンショウウオ、ハリヨ、ウシモツゴ、スイゲンゼニタナゴの5種の繁殖担当園館であり、展示個体数を確保するだけでなく、(社)日本動物園水族館協会としての安定した個体数を維持・保存する協働事業を推進しています。また、魚類では、保全対象種の選定や円滑な繁殖成果がなされるよう全国の水族館の連絡調整を図っています。

飼育下での繁殖技術が確立したとしても、ひとつの園館のみで何世代にもわたり繁殖を行った場合には、遺伝的多様性が失われ、近交劣化が起こる可能性があります。そこで、それぞれの種の担当者が地域系統ごとに管理し、親個体の交換や貸し借りをを行うなどして、遺伝的多様性の維持と近交劣化防止を目的とした計画的な繁殖を進めています。

動物担当  
村山



### 全国一斉開催企画展示

### 「明日へつなぐ日本の自然 —よみがえれ、日本の希少淡水魚—」

平成24年1月7日(土)より「明日へつなぐ日本の自然 —よみがえれ、日本の希少淡水魚—」のパネル展示を行ないました。日本の希少淡水魚を保存している日本産希少淡水魚繁殖検討委員会の事業として、全国の水族館・動物園で一斉に開催されている企画展示です。

ペットショップで買ったメダカやタナゴなどを近所の川や池に逃がしてしまう行為や、環境再生のシンボルとして、あるいは保護や情操教育を目的として作られるピオトープに、産地の分からない魚類を放す無秩序放流についてクローズアップし、各地で起きている事例を紹介しました。このような問題は魚類に限ったことではなく、哺乳類や鳥類、昆虫、植物などあらゆる生き物たちで同じようなことが起きています。

## アクア・トトぎふにおける

## 種の保存

### ハクバサンショウウオ

長野、富山、岐阜、新潟に分布しており、岐阜県内では北部の限られた場所に生息しています。それぞれの分布域はとても狭く、開発などの影響を受け生息数が減っています。当館を含む3園館が繁殖担当園館となり、当館では2006年より岐阜県の許可を得て飼育を開始するとともに、繁殖地整備などの域内保全も並行して行っています。繁殖担当園館が積極的に情報を共有しながら飼育下繁殖の成功を目指しています。



### ホクリクサンショウウオ

富山、石川に生息しています。開発などの影響から生息数が減っていますが、基準産地である石川県羽咋市では天然記念物に指定されるとともに、増殖池の造成なども行われています。当館を含む3園館が繁殖担当園館となり、当館では、2010年にいしかわ動物園より分譲していただいた個体を飼育しています。飼育下繁殖はすでに成功しています。

### ハリヨ

岐阜県、滋賀県に分布し、湧水の出る限られた場所にものみ生息していますが、湧水の枯渇や、生息域の埋め立てなどにより、生息数が減少しています。岐阜県・滋賀県の両県で指定希少野生生物として条例指定されています。繁殖園館は5園館で、当館はその中で各園館の飼育繁殖を調整し、安定した個体数の確保に努めるとともに、研究機関と共同研究を行っています。



### ウシモツゴ

岐阜県、愛知県、三重県に分布し、現在では一部のため池や小川にものみ生息しています。三県全てで指定希少野生生物として条例指定され、捕獲が規制されていますが、未だ密漁が行われています。当館を含む6園館が繁殖担当園館となり、当館では、地域の市民団体などと協力し、岐阜県産個体群の親魚の交換会を行い遺伝的多様性の維持に努めるとともに、民間、行政などが一体となり生息域内保全や野生復帰にも取り組んでいます。



### スイゲンゼニタナゴ

兵庫県・岡山県・広島県に生息し、現在では限られた河川やその支流、用水路でしか生息が確認されていません。2002年より「種の保存法」による国内希少野生動植物種の対象種となりましたが、未だに密漁や不法飼育が行われています。当館を含む6園館が繁殖担当園館です。生息する水系ごとに個体群を分けて園館ごとに飼育し、遺伝的多様性の維持に努めています。





# アクア・トト ぎふ スタッフ 飼育日記

## アジメドジョウのすむ川

水族館から車を走らせること約1時間。アマゴやアブラハヤ、アカザなどの淡水魚をはじめ、カジカガエル、サワガニ、イシガメなどがくらす溪流があります。そこは、アジメドジョウの生息場所でもあります。川の中をのぞいてみると、川底をはうように、群れをなして泳いでいるアジメドジョウたち…。初めて見た時、その姿に感動すら覚えました。たくさん泳いでいるのが目で見てわかりますから、すぐに捕まえられそうと思いきや、なかなか簡単にはいきません。アジメドジョウは速い流れにも負けじと泳ぐことができます。魚で、網を持って近づけば、距離を保ちつつ、泳ぎ去ってしまいます。しかし、行動パターンをよく観察していると、最終的に戻って居つく場所が分かってきて、そこで待ち伏せをすることで採集



することができました。

ところで、水族館の飼育スタッフは、展示している生き物をいかに生き生きと魅せるか、つまり言い換えると、いかにその生物の行動や生態を展示を通してお客さまに伝えることができるかを日々追求しています。

魚類担当  
大島



そこで、今回、実際の現地調査を踏まえ、アジメドジョウの泳ぐ川の環境を水槽内でも再現することにしました。まずは、底砂です。生息域の川底の砂利の粒径や種類、組成など水中写真を参考にしつつ、いろいろな種類の砂利をブレンドしました。そして、次に水流です。どの方向に水流を向ければアジメドジョウがちゃんと泳いでくれるか、試行錯誤を重ね、起流ポンプの大きさやシャワーパイプの向き、シャワーパイプの穴の大きさ、穴の数を決め、設置しました。最後に、照明です。川底に映る水面のきらめきの中を泳がせたくて、照明器具も変更し演出を試みました。

水槽のセッティングを終了し、採集してきたアジメドジョウを收容してみたところ、苦勞した甲斐あって、流れに逆らって泳ぐものや、石のすき間に潜っているもの、石についたケイ藻を食んでいるものなど、今まで見られなかったような活動的なアジメドジョウを展示できるようになりました。

## 新アシカショートレーニング2012

毎年、春休みが近付くとマリンは少し忙しくなります。なぜかというと、アシカショーがリニューアルされるからです。昨年は映画女優に挑戦したマリンですが、今年はマジックに挑戦です。

ショーの台本は、トレーナーが考えています。秋ごろに台本を考え始めるのですが、お客さまに楽しんでもらえるよう、毎年悩みながら台本を作ります。台本が書きあがると、マリンの新しいパフォーマンスのトレーニングが始まります。新しいトレーニングはこれまでのものを応用する場合や、一からトレーニングする場合があります。トレーニングは4人で分担し、私はまだ経験が浅いため、比較的簡単にできそうな「ダンベルをくわえた状態で頭を上下に振る」「くわえたダンベルを放り投げる」「前向きに口をあける」。この3つの種目の担当になりました。他のトレーニングに比べて簡単なのは、やってみると結構大変でした。まず、最初の難関は、ダンベルをくわえさせる事でした。マリンはなぜかダンベルの丸い部分をくわえてしまい、「ここでいいでしょ?」と聞いたげな目で私を見ます。そこじゃないです、マリンさん。手をくわえられる危険を承知で、私の手でダンベルの丸い部分を隠してみると、残った柄の部分にくわえました。そうそう!!そこですよ!そして最大の難関は、くわえたダンベルを放り投げることでした。

動物担当  
尾崎



台本上、ダンベルをトレーナーにぶつける必要があったのですが、なかなかあたりません。そこで、マリンの体の向きを変えてみるとトレーナーに向かって投げられるようになりました。マリンがパフォーマンスをマスターしたところで、次はトレーナーの練習です。最初はマリン役の人とトレーナーで立ち稽古をし、最後はマリンと一緒に本番さながらに練習をします。こうして、無事新しいショーの完成です。今年も、お客さま、そしてマリンにも楽しんでもらえるショーになることを願っています。





# 新連載 その1 キーパーズコラム

飼育スタッフが、特に思い入れの深い生き物について紹介します。



動物班所属 廣瀬  
コウメカワウソと水生昆虫  
という異色の生き物をメインで担当。  
仕事がめっぽう得意。

## 日本最大の水生昆虫「タガメ」

**記**念すべき第1回目は、日本最大の水生昆虫「タガメ」について紹介します。

**タ**ガメは、水生昆虫の王様というだけあって、最大で7cm位になる大型の昆虫です。写真では小魚を捕まえています。時には自分の体よりはるかに大きな獲物にしがみついて捕食することもあります。タガメの捕食方法は特徴的です。ストロー状の口から消化液を獲物の体内に入れて、体を麻痺させ、肉を溶かし、ドロドロになったところを吸うのです。これを「体外消化」と言います。実は、私は



タガメに捕食されそうになったことがあります。というのは大げさなのですが…。以前タガメを捕まえようと手でつかんだところ、どうやら口吻を刺して消化液を注入されたようで、ビリビリしびれてしまった経験があります。皆さんもタガメに触るときは気をつけてくださいね。

**タ**ガメは昆虫では珍しく卵を守ります。卵を守るのはオスの役目で、卵が乾燥するのを防ぐために卵に水をかけたり、別のメスによる卵の破壊を防いだりするのです。でも、なぜメスは卵を破壊しようとするのでしょうか？それは卵を守っているオスがなくなれば、目の前にいる別のメスと繁殖するしかないのです。それがたとえ自分の守っていた卵を破壊したメスであっても…。

**こ**んな特異な習性を思ったタガメですが、最近ではほとんど見かけることがなくなってしまいました。エサの



生き物が減ったり、生息できる場所が減ったり、外来生物の影響を受けたりといろいろな要因が重なって、減少しているようです。実際に岐阜県内でも、タガメが生息していた場所に道路がつくられ池ごとなくなってしまったところもありました。そのため、お客さまに「タガメを採集したいけど、どこにいますか？」と質問をされた際にも、特定の場所をお教えするのは控えています。タガメの生息場所を教えて、もしそれが広まってしまうと、乱獲につながりその地域のタガメがいなくなってしまう可能性があるからです。わたしは、そんなタガメを累代繁殖させて、安定した展示ができるようにこれからも努力していきます。

## 【 環境学習プログラム 】

### 環境学習での 当館ボランティアの活躍

さわってみよう 作ってみよう 観察してみよう 考えてみよう  
平成23年10月から平成24年3月までの活動

学習担当  
圓戸



アクア・トトぎふでは、現在30名ほどの方がボランティア登録をしています。主婦、学生、会社員などさまざまですが、皆、生き物とアクア・トトが大好きな方ばかりです。

ボランティアの活動は、館内での生き物の解説、バックヤードツアーや工作教室の補助などですが、どれもお客さまと直接接するものが中心となっており、お客さまと館をつなぐ大事なかけはしとなっています。生き物の解説は館内に小さな机を設置し、標本などをお客さまに触ってもらったり、パネルを使ってクイズをしたりするものです。「ヘビの抜け殻」「カルガモの羽根と卵」など、解説を行うテーマにはいくつかの種類があるのですが、皆さんそれぞれ、得意なテーマがあります。スタッフと一緒に勉強会をしたり、自分で資料を集めたりして、常設展示だけでは伝えきれない生き物の魅力を、多くのお客さまに知っていただけるようがんばっています。また、有志による骨格標本作製集団「骨部」もあり、作った標本は展示や解説に役立っています。また骨を通じて他館のボランティアや学芸員との交流を深めるなど活発に活動しています。

当館でのボランティア活動は、お客さまに学びの機会を持っていただくとともに、ボランティア自身にとっても、積極的な学びの活動となることに意義があると考えています。お客さまとボランティア双方の生涯学習の場を提供できるよう、私たちスタッフも努力していきたいと思っています。



# 企画展レポート



岐阜県産ハリヨ

## 企画展 命まもる魚 ～トゲウオからのメッセージ～

【開催期間】平成23年12月16日[金]～平成24年3月11日[日]

トゲウオの仲間は、体にトゲを持つのが特徴です。また、繁殖のときには水草を集めて巣を作り、求愛のダンスを踊る、とても興味深い魚です。冷たい水を好むトゲウオの仲間は、北半球の海や川、池などに分布しており、ここ岐阜県にもハリヨという名のトゲウオの仲間が生息しています。しかし、人間社会の活動が、環境の変化や生息地の減少などを招き、トゲウオたちの未来に暗い影を落としています。この企画展を通して、みなさまに「トゲウオ」という魚を知っていただき、トゲウオの未来を明るく変えるにはどうしたらいいのかを考えていただくきっかけとなればと思います。

### 企画展特別イベント

【開催期間】2月4日[土]～12日[日]

「湧き水の魚 はりんご物語」上映会 監督・撮影：押切隆世/企画・監修：森誠一  
ハリヨのオスによる巣作りの様子や、子育ての様子を飼育スタッフによるレクチャーと共に、貴重な映像で紹介しました。



スターライトマツブシプレコ

## 世界のナマズシリーズ 企画展 アマゾンの吸いつきナマズ・プレコ

【開催期間】平成24年3月16日[金]～7月16日[祝]

ナマズ…ヒゲがあって、大きな口をもっている。だれでも姿形を思い浮かべることができる、なじみ深い魚です。でも、一口にナマズといっても形態はさまざまで、世界には多様なナマズの仲間がすんでいます。ナマズの仲間(ナマズ目)は、全ての魚類の総種数の約1割を占める大きなグループで、その種数は2,800種以上にもなります。「アマゾンの扉をひらく 小さなナマズ、コリドラスを探して」に続く世界のナマズシリーズ第二弾は「プレコ」を紹介しました。



黄金のナマズ

### 特別展示 神秘の黄金ナマズ

【開催期間】平成23年12月26日[月]～平成24年2月12日[日]

水族館エントランスに、黄金色に輝くナマズを展示しました。このナマズは生まれつき体の色素が欠損したアルビノ個体で、平成23年11月に一般の方により岐阜県内の河川で釣り上げられ、水族館に持ち込まれたものです。展示期間中は、テレビや新聞、ラジオなど、たくさんのマスコミの方々に取材していただき話題となりました。



サツキマスの卵

### 特別展示 サツキマスの卵

【開催期間】平成24年1月21日[土]～

昨年に引き続き、サツキマスが展示槽内で産卵しました。今年は受精卵を取り上げて、仔魚の育成に取り組んでいます。

### 特別展示

### 第3回アクア・トトぎふ「こども・いきもの学会」

【開催期間】平成23年10月1日[土]～12月11日[日]

児童、生徒の皆さんによる身近な自然の環境調査についてのポスター発表を行いました。今回は、平成20年、21年に続き、3回目の開催となりました。

#### 参加して下さった方々

- 安城市立今池小学校 5年1組「あそび公園の植物を調べて学ぶ」、5年3組「上倉地区の自然を調べて学ぶ」
- 関市立下有知中学校 1年生「身近な環境から学ぶ」
- 岐阜県立大垣東高等学校理科科 ハリヨ研究班「海津市南濃町津屋地区 清水池のハリヨ調査」
- 一宮市立大和東小学校 5年生 鶴野さん「絶滅危惧種 イタセンパラ」

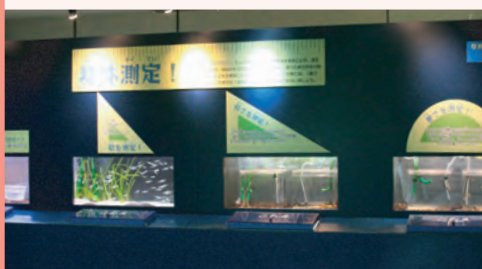
## マンズリー水槽

テーマにちなんだ生き物を月ごとに紹介しています。

- 10月 「10月10日はメガネの日」
- 11月 「身体測定!」
- 12月 「今年もおつかれさま 生き物たちも忘年会」
- 1月 「辰年 今年もがんばりましょう!」
- 2月 「生き物たちの建国記念の日」
- 3月 「国際女性デー」



オカガニ





## 特別展示「最後のオレ竜 がんばれ中日ドラゴンズ」

平成23年11月1日[火]～29日[火]

中日ドラゴンズのリーグ優勝を祝し、「竜魚」とよばれるアジアアロワナや、「竜眼」という名の金魚、そして、落合博満監督の出身地である秋田県の名物ブリコ(ハタハタの卵)を展示しました。



## クリスマスイベント

平成23年11月12日[土]～12月25日[日]

毎年恒例の「デンクウナギでクリスマスツリー点灯!？」をはじめ、クリスマススタンプラリーや、マリモのグラスツリーを展示しました。また、館内のクリスマスツリーを彩るトトオーナメントを持参してくださった幼児の方々には、入館料無料サービスを実施しました。



## 一日館長

平成23年11月23日[祝]



今年は國枝奎吾さん(小学校4年生、江南市)が務めてくださいました。「環境や水辺の生き物を大切に、お客様のことを考え、楽しく、ためになる施設にしたい」と応募してくださいました。当日は、明るくはきはきと業務にあたり、お客様の前での挨拶もしっかりでき素敵な館長さんでした。最後に堀館長とならんで記念撮影を行いました。

## ヒキガエル水槽ができました

平成23年12月13日[火]～



4階「長良川上流の生き物」コーナーを少しリニューアルし、新たにアズマヒキガエルを展示しました。ナガレヒキガエルとともに、上からも横からもぞける広い水槽で飼育しています。春先には、繁殖行動が観察できるかもしれません。

## 第9回メコンオオナマズ学術調査委員会

平成24年2月3日[金]

当館学芸員からは飼育しているメコンオオナマズに関し「摂餌周期と作業報告」について発表しました。また、タイ国調査を行っている京都大学大学院情報学研究所の荒井修亮先生からは「メコンオオナマズの長期行動観察計画」について、フォトエコロジストの新村英雄氏には「メコンオオナマズの遡上条件」についてご発表いただきました。



## 里山のカエル保全活動

平成24年2月24日[金]

松森里山再生グループと岐阜・美濃生態系研究会が主体となって、岐阜県美濃市内にあるヤマアカガエルの産卵場所の保全を行っています。この日は中宍小学校の生徒の皆さんによる不法投棄ゴミの撤去や干上がりそうになっている卵の移動が行われ、当館からは飼育スタッフが講師として参加しました。



## 主な出来事

平成23年10月1日～平成24年3月31日

※ものづくりWSは土日祝開催

9.30～12.11	企画展「生物のふしぎな能力～生存競争を勝ち抜くために～」
9.3～10.30	ものづくりWS「スライムでミニ水族館をつくろう!」
10.1～31	マンスリー水槽「10月10日はメガネの日」
10.1～12.11	第3回アクア・トトぎふ「こども・いきもの学会」
10.8～10	トトの日イベント
10.9	アクア・スクール「ボトルアクアリウム教室」
10.15	水族館ナイトツアー
10.23	アクア・スクール「はじめての釣り体験」
10.29,30	お泊まりナイトツアー
10.30	PRキャラバン「岐阜市まるごと環境フェア」
11.1～29	特別展示「最後のオレ竜 がんばれ中日ドラゴンズ」
11.1～30	マンスリー水槽「身体測定!」
11.3	PRキャラバン「第6回 学びの森フェスティバル」
11.3～12.31	ものづくりWS「キャンドル水族館をつくろう!」
11.12～12.25	クリスマス特別企画「デンクウナギでクリスマスツリー点灯!」
11.12～12.25	クリスマス特別企画「クリスマススタンプラリー」
11.12～12.25	クリスマス特別企画「トトオーナメント」
11.23	一日館長
11.13	アクア・スクール「ボトルアクアリウム教室」
11.6	アクア・スクール「はじめての釣り体験」
12.1～12.25	クリスマス特別企画「ふわふわマリモのグラスツリー」
12.1～31	マンスリー水槽「今年もおつかれさま 生き物たちも忘年会」
12.1～1.9	冬の年パスキャンペーン
12.1～1.9	冬のサポーターキャンペーン
12.11	アクア・スクール「お魚エコグッズをつくろう」
12.13	ヒキガエル水槽ができました
12.16～3.11	企画展「命まもる魚～トゲウオからのメッセージ～」
12.25	アクア・スクール「トト・エコバックをつくろう」
12.26～2.14	特別展示「神秘の黄金ナマズ」
1.1～31	マンスリー水槽「辰年、今年もがんばりましょう」
1.1～6	お正月イベント
1.1～2.26	ものづくりWS「どうぶつミニカイトをつくろう」
1.7～	全国一斉企画展「明日へつなぐ日本の自然」
1.15	アクア・スクール「お魚エコグッズをつくろう」
1.21～2.14	バレンタイン企画「テッポウウオがあなたのハートを狙い撃ち!」
1.21～	「サツキマスの卵」展示
1.22	アクア・スクール「トト・エコバックをつくろう」
2.1～29	マンスリー水槽「生き物たちの建国記念の日」
2.3	第9回メコンオオナマズ学術調査委員会
2.4～12	岐阜県民優待キャンペーン
2.4～12	企画展特別イベント「湧き水の魚 はりんご物語」上映会
2.11	プレ アクア・スクール「冬のいきものさがし」
2.12	アクア・スクール「水族館ガイドツアー」
2.26	アクア・スクール「ニジマスの解剖をしよう」
3.1～31	マンスリー水槽「国際女性デー」
3.3～4.22	ものづくりWS「おさかなせっけんをつくろう」
3.11	アクア・スクール「水族館ガイドツアー」
3.16～7.16	企画展「世界のナマズシリーズ 吸いつきナマズ・プレコ」
3.22	レストラン「AROWANA GARDEN」オープン
3.24	PRキャラバン「ぎふイクメンハッピーフェスティバル」
3.25	アクア・スクール「魚のかいぼうをしよう」
3.31	「透明ガイコツ標本をつくろう!」



## アクセス情報

### 東海北陸自動車道

「川島PA・ハイウェイオアシス」よりすぐ、「一宮木曾川IC」出口から車で約10分、「岐阜各務原IC」出口から車で約10分。一般道からもお越しいただけます。駐車場無料。

### 鉄道・バス

JR「岐阜駅」・名鉄「名鉄岐阜駅」より岐阜バス川島松倉行き「川島笠田」停車徒歩約15分（土日祝は「河川環境楽園」停まで乗り入れる便もあります）、JR「那加駅」・名鉄「新那加駅」から、「かかみがはらふれあいバス」利用、JR「木曾川駅」・名鉄「新木曾川駅」下車タクシー利用、など。

※公共交通機関ご利用の場合は、事前にお時間等ご照会ください。

## 入館料金（税込）

区分	個人		一般団体	区分	学校団体
	1回券	年間パスポート	20人以上		
大人	1,400円	2,800円	1,120円	大学生	1,000円
中学生・高校生	1,100円	2,200円	900円	高校生	850円
小学生	750円	1,500円	600円	中学生	520円
幼児(3歳以上)	370円	740円	300円	小学生	420円
				保育園・幼稚園児	260円
				園児付添保護者	1,000円

※障がい者手帳（付添者1名を含む）をお持ちの方は、個人1回券がそれぞれ半額となります。

※65歳以上で年齢を証明するものをお持ちの方は、個人1回券が1,260円となります。

※年間パスポートの有効期間は、発行日から1年間となります。

## 開館時間

平日 午前9時30分～午後5時まで

土日祝 午前9時30分～午後6時まで

※最終入館、チケット販売及び年間パスポート等会員証の新規・更新のお手続きは、閉館時間の1時間前となります。

## 休館日

無休 ※ただし、臨時休館させていただく場合がございます。詳しくは水族館までお問い合わせください。



〒501-6021 岐阜県各務原市川島笠田町1453 河川環境楽園内  
TEL 0586-89-8200 FAX 0586-89-8201

PC <http://aquatotto.com> Mobile <http://aquatotto.com/k>



Fresh!Water Aqua Totto News No.15  
世界淡水魚園水族館 アクア・トトギフ 編集発行  
平成24年4月発行